



伊藤 春美 議員



骨髄移植ドナー支援の拡大を

問 本市の骨髄バンク登録者数の推移と年代構成は。

答 市町村単位のデータはなく、令和4年の千葉県のドナー登録者数は1万8839人であり、平成29年と比較すると5千人近く増加している。年代構成は40代後半の年齢層が最も多く、若年層の登録が少ない状況。

問 本市の骨髄移植ドナー支援助成金について、これまでの実績は。

答 この制度は令和元年4月から開始したもので、対象は骨髄等の提供を完了した市民と骨髄提供者が勤務するドナー休暇を与えた事業所。助成金額は個人に対しては1日2万円、事業所に対してはドナー休暇1日につき1万円。これまでの実績は骨髄等を提供した市民に対して、令和3年度2件、28万円を交付している。

問 骨髄等の提供に関わる最終合意を行った後でも、患者

の体調などにより移植が中止になってしまう場合もあると聞くが、提供のプロセスを踏んだ方も助成金の対象とするべきでは。

答 今後、県や県内市町村の動向を注視しながら、骨髄提供に至らなかった方への助成も検討していく。



糖尿病予防対策の支援を

問 糖尿病は発症すると治療することではなく、放置すると様々な合併症を引き起こすため、健康長寿を延伸するためにも、糖尿病の予防対策は国民的な課題となっている。国立国際医療研究センターでは、糖尿病の予防対策を支援するために、3年以内に2型糖尿病を発症する確率を標示する「糖尿病リスク予測ツール」を公開しているが、これを市ホームページでも掲載してはどうか。

答 今後、糖尿病リスク予測ツールを含めた糖尿病予防に関する情報をひとまとめにして、ホームページに掲載していきたいと考える。

農業資材高騰への対応は

問 一昨年の原油高からウクライナ問題などが続き、肥料や農業資材の価格が高騰し、農業は本当に厳しい状況にあるが、市ではどのように対応していくのか。

答 昨年度、燃油価格の高騰に対する支援として「旭市施設園芸暖房用燃料高騰対策事業」を実施し、燃油購入費の一部を支援した。引き続き情報収集に努め、生産者に周知を図っていく。

道の駅に電子マネーの導入を

問 道の駅で電子マネーを使用できるようにしてほしいとの声が多くあるが、電子マネーなどのキャッシュレス決済導入の予定はあるか。

答 令和3年6月にレジシステムの更新等を行い、その際に様々なキャッシュレス決済の導入を検討した。その結果、市内及び近隣自治体の利用者、リピーターが多いこと、手数料率等を考



飯嶋 正利 議員



慮し、季楽里あさひのみで利用できる現金チャージ式プリペイドカード「きらか」を導入した。来場者のニーズ、手数料率の動向等を踏まえ、新たな決済方法の導入も検討する。



7周年を迎えた道の駅季楽里あさひ

前市長から引き継いだ事業の見直しを

問 前市長から引き継いだ事業がそのまま続いているものもあるが、これらは検証して、よりよい形にしていくな必要があると思うが、市長の考えは。

答 前市長から引き継いだ既存事業について、私のまちづくり方針と合致しているか、継続するか否かなどを検証し、足りない部分があれば補い、必要に応じて見直すなど、課題や問題点を整理した。